

令和2年度 【新温泉町】 認知症地域支援推進員活動報告

【市町名】の認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員： 2 名

2 認知症地域支援推進員の役割

(1) 認知症の理解を深めるための普及・啓発

- ・ 認知症サポーター養成講座の実施(地域・企業・施設など)
- ・ キャラバンメイト連絡会の実施(年1回)
- ・ 地域での出前講座の開催

(2) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等提供

- ・ 認知症ケアパス(認知症支援ガイドブック)の普及
- ・ 医療介護連携会議の開催(2ヶ月に1回)
- ・ 初期集中支事業の運営・推進

(3) 認知症の人や介護者支援

- ・ オレンジカフェのPRと運営
- ・ 立ち上がったオレンジカフェの協働を勧めるため、年に2回のカフェ連絡会の開催。

(4) 認知症の人を含む地域づくり推進

- ・ 高齢者見守り事業所の拡大(登録事業所を増やす)
- ・ 社会福祉協議会などと連携した地域づくりの推進
- ・ 認知症高齢者等見守りSOSネットワークの推進

報告者氏名： 新温泉町地域包括支援センター 稲葉政人

【新温泉町】 認知症施策全体図

① 予防の推進 (早期発見・ 早期対応)

- ・ 認知症初期集中支援チームの運営(平成29年度より)
- ・ 地域への出前講座による啓発活動(認知症の知識・認知症予防体操など)

② 医療体制の 強化・充実

- ・ 認知症地域支援推進員を設置し、関係機関との連携に努める
- ・ 認知症ケアパスの作成と、随時見直しの検討を行なう。
- ・ 「認知症対策会議」を地域ケア会議に位置づけ、意見を施策に反映させる。
- ・ 認知症の疑いがある際にはまずかかりつけ医に相談する事を啓発

③ 地域支援

- ・ 認知症カフェを圏域ごとに設置し、本人や家族が集いつながれる場所を作る。
- ・ 認知症高齢者等見守り・SOSネットワークの構築
- ・ いきいき百歳体操の推進による、住民同士の支えあい・見守り体制づくり

④ 人材育成

- ・ 県が開催する認知症対応力向上研修について、引き続き病院や介護保険施設等への情報提供を行なう。
- ・ 地域ケア会議を継続的に開催し、介護支援専門員、介護事業所、地域包括支援センター等多職種での検討をする中で、ケアマネジメント力の向上や更なる質の高いケア人材の育成に努める。

⑤ 若年性認知 症対策

- ・ 「若年性認知症支援ハンドブック」の活用
- ・ 「認知症の相談窓口」を地域包括支援センターに設置し、地域住民等に啓発
- ・ 「オレンジカフェ」のPRに積極的に取り組み、当事者の方に参加していただけるよう、促す。

【新温泉町】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号 ⑨ コロナ禍に対応した取り組みや活動

● コロナ禍でのオレンジカフェの取り組み

令和2年度は、コロナウイルスの流行の状況に合わせながらの開催となりました。緊急事態宣言等も踏まえ、町内3つのオレンジカフェ内で情報共有し、感染対策を実施しながらできる限りの開催を目指しました。

● 令和2年度開催状況

集い名	開催日	開催場所	対象者	内容	参加費	圏域
オレンジカフェ 「ひとやすみ」	毎月第3木曜日 13：30- 15：30	サンシーホール浜坂 (新温泉町浜坂1903-1)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	浜坂地域
オレンジカフェ 「ほっこり茶屋」	毎月第4火曜日 13：30- 15：00	ほっこり庵 (新温泉町湯894番地)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	温泉地域
認知症＆予防カフェ うたお茶カフェ 「のどか」	毎月第1水曜日 13：30- 15：00	特別養護老人ホーム ゆむら (新温泉町歌長字熊田 600番地)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	温泉地域

●オレンジカフェ連絡会での情報交換

それぞれのオレンジカフェが実施に向けて検討している感染予防対策について意見を出し合った。下記の項目については共通で対策を徹底していく事を確認する。

①アルコール消毒の準備

②換気の徹底(常時)

③テーブルの配置に配慮し、対面に座らないように工夫。

④茶菓子を小分けし接触を最低限に控える。

※マスクの着用はできる限り推奨。耳の遠い方もおられるため強制はできないので、距離を取ることや体調確認(症状の有無)をしっかりと行う。

◇新型コロナウイルス対策「通いの場」の活動を行う上で注意すべきポイントを運営の参考にしていく事を3カフェで共有。チラシを配布した。

◇下半期にも連絡会を開催し、感染予防対策を含めた実施状況を情報共有した。



●各オレンジカフェでのそれぞれの取り組み

- ◇距離を取った状態での会話をするとといった状況を少しでも楽しんでもらえるように、数人で会話ができる糸電話をみんなで作成して、会話を楽しんでいただいた。作る過程から楽しんでもらうことができた。
- ◇送迎付きのカフェでは参加人数を半分に減らして対応した。
- ◇会話が聞き取りづらい方には、スタッフが間に入ることで、できるだけマスクを着用したまま話をして頂けるようにした。

最後に

町内では感染拡大はありませんでしたが、兵庫県下の感染者の状況を見ながらその都度相談し、実施しました。集い場がほとんど中止になっていく中で、町内のカフェだけでなく、但馬の他の地域のカフェ担当者とも情報共有を行いながら、できる限り開催ができるように取り組みました。また、カフェの中で感染対策についての情報発信も行い、回数は少ないながらも開催できたことは参加いただいた皆さんにとってもよかったと思います。引き続き、感染症予防に配慮しつつ、気持ちよく参加を楽しんでいただけるよう工夫しながら、開催を続けていきたいと思っています。